コンサート

自然真音楽

しぜんしんえいがく

2023.
12.12 火 TUE.
開場 18:30
開演 19:00

会場 | アクロス福岡 円形ホール
福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡1階

企画・構成 | 河合 拓始
主　　催 | クリスチャン・ウォルフの音楽コンサート実行委員会
後　　援 | 福岡市・(公財)福 岡市文化芸術振興財団

ご挨拶

本日はご多用のなかコンサート「自然真営楽」にお出かけ下さり、ありがとうございます。
当実行委員会主催で 12 月にここアクロス福岡円形ホールでコンサートを開催するのは2021 年「システムを変える」、2022 年「ここが家だ」に続いて、三年度目になりました。
アメリカ合衆国の作曲家ウォルフの作品に触発されて始まった企画コンサート、何かしら暗黙の「垣根」のようなものを下げていければ、という思いがあって続けています。
今年は、江戸時代の思想家・安藤昌益の著作「自然真営道」のことばを縦軸に、河合の作曲音楽で歌い、語り、奏で、動き、コンサート全体でひと繋がりのパフォーマンスになることを意図しています。
お楽しみいただけましたら幸いです。

河合拓始（クリスチャン・ウォルフの音楽コンサート実行委員会 代表）

コンサート STAFF
■音響・録音：江島正剛（ジャバラ倶楽部）
■照　　明：内田正信（アクトワン）
■ピアノ調律：川内順一朗（ピアノファクトリー・クジラ）
■映像収録、宣伝動画：神山孝史
■協　　力：OddRooming

ポスター・パンフレット製作：OddRooming
企画・構成：河合拓始
主催：クリスチャン・ウォルフの音楽コンサート実行委員会

協力：九州大学大学院芸術工学研究院長津研究室
　　箱崎水族舘喫茶室、武満徹の小宇宙企画の会
　　カフェショパン、gallery cobaco

謝辞：山内英正先生
　　（兵庫歴史教育者協議会会長、元・甲陽学院中学校高等学校教諭）

後援|福岡市・（公財）福岡市文化芸術振興財団

令和５年度第 60 回福岡市民芸術祭参加

プログラム

（題名・順序はチラシ掲載から変更になっています）

テキスト …… 安藤昌益（一部現代語訳・翻案：河合拓始）

全作曲・台本構成・ソング作詞 …… 河合拓始

1A 器楽四重奏「四行転定の楽」

■オーボエ：栫大也 ■トロンボーン：内田遼 ■鍵盤ハーモニカ：長津結一郎 ■ピアノ：河合拓始

1B 群読「活真、四行、転定、・・・」

■群読：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織

2A 群読「面部の八門について」

■群読：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織

2B 歌「八門の形貌」

■歌：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織 ■トロンボーン：内田遼

2C 群読「八門の互性」

■群読：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織

3A ソング「エストレラス、エスメラルダ」

■ヴォーカル、パンデイロ：上野ゆみこ ■ピアノ：河合拓始

3B 即興「炊気」

■トロンボーン：内田遼 ■ダンス：辻菜津子 ■体術：新部健太郎

4A 群読「いろり」

■群読：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織

4B ソング「すいずいさー」

■歌：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織
■ヴォーカル、カシシ：上野ゆみこ ■トロンボーン：内田遼 ■ピアノ：河合拓始

5 器楽五重奏「四行妙道の楽」

■オーボエ：栫大也 ■トロンボーン：内田遼 ■鍵盤ハーモニカ：長津結一郎
■パンデイロ：上野ゆみこ ■ピアノ：河合拓始

6 インストラクションによる即興「金気の響き」

■ボウル：上野ゆみこ、内田遼、栫大也、神山孝史、川内依子、
河合拓始、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織

7A 朗読 / ダンス / ピアノ「諸獣会合」（1）狐　（2）鼠　（3）猫

■朗読：神山孝史、松﨑早織、松﨑壱慧 ■ピアノ：河合拓始
■ダンス：辻菜津子 ■体術：新部健太郎

7B 器楽四重奏「猫何」

■オーボエ：栫大也 ■トロンボーン：内田遼 ■鍵盤ハーモニカ：長津結一郎 ■ピアノ：河合拓始

8 ソング「だんでぃらいおん」

■ヴォーカル、パンデイロ：上野ゆみこ ■ピアノ、ヴォーカル：河合拓始

プログラム

（題名・順序はチラシ掲載から変更になっています）

9 群読 / 音「八門と八根」

■群読と音：上野ゆみこ、内田遼、栫大也、神山孝史、川内依子
河合拓始、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織
■ダンス：辻菜津子 ■体術：新部健太郎

10A 群読「眼と耳」

■群読：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織

10B 歌「眼は木気、耳は水気」

■歌：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織 ■ピアノ：河合拓始

10C 群読「耳と眼」

■群読：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織

10D 歌「耳は水気、眼は木気」

■歌：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織 ■ピアノ：河合拓始

11 インストラクションによる即興「互性パフォーマンス」

■上野ゆみこ、内田遼、栫大也、神山孝史、川内依子
河合拓始、辻菜津子、長津結一郎、新部健太郎、松﨑壱慧、松﨑早織

12 器楽四重奏「四行転回の楽」

■オーボエ、スライドホイッスル：栫大也 ■トロンボーン：内田遼
■鍵盤ハーモニカ：長津結一郎 ■ピアノ：河合拓始

13A 群読「昼夜、季節、星」

■群読：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織

13B 歌「炉内 - 面部 - 直耕」

■歌：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織 ■ピアノ：河合拓始

14 ソング「丸く沈む」

■ヴォーカル：上野ゆみこ ■歌：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織
■ピアノ：河合拓始 ■ダンス：辻菜津子

15A 器楽四重奏「土活真の楽」

■オーボエ：栫大也 ■トロンボーン：内田遼 ■鍵盤ハーモニカ：長津結一郎 ■ピアノ：河合拓始
＋■鍵盤ハーモニカ：神山孝史、川内依子、松﨑壱慧、松﨑早織

15B 群読「生死」

■群読：上野ゆみこ、内田遼、栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織

16 ソング「よもぎだんご」

■歌：栫大也、神山孝史、川内依子、長津結一郎、松﨑壱慧、松﨑早織
■ヴォーカル、パンデイロ：上野ゆみこ ■トロンボーン：内田遼 ■ピアノ：河合拓始
■ダンス：辻菜津子 ■体術：新部健太郎

曲目解説　河合拓始

※昌益にまつわるテキストは、昌益の原文によるもの（書き下し文）の他に、河合によるその現代語訳や翻案も含みます。
※作曲年の書かれていない曲は、2023年新作（初演）です。

1A 器楽四重奏「四行転定の楽」

四行は、昌益による独自の概念。中国由来の「五行」（世界の五大構成要素としての木・火・土・金・水）のうち、昌益は「土」を物事を産み出す根本のものとして別格に位置付けたので、「四行」は他の四種すなわち木・火・金・水のことである。転定は「てんち」と読み、天地のこと。昌益は、手垢にまみれた一般的なことばに、より本源的な意味を与え直すために独自の漢字（ときには造字もする）で書き直すことが多く、これもそのひとつ。星がめぐるので天は「転」、地は確固たる土台として「定」と書いた方がその有様がよくわかるということだ。さて今回、こうした用語から触発されて、器楽アンサンブルの作品を作った。オーボエ、トロンボーン、鍵盤ハーモニカ、ピアノ、というかなりサウンドが相異なる"四"楽器による。

1B 群読「活真、四行、転定、・・・」

1Aに重なるかたちで、群読が始まる。昌益の主な概念を、紹介的に、空間に散りばめるように。

（ことば：）活真　（すべてを貫くエネルギー）　無始無終（始まりも、終わりもない）
進退　（進み、また退く。退き、また進む）　直耕　（天道を盗まず、、、）
互性　（相対する二物は、互いに入り組み、別でない）　妙道、転定、自然、通気、横気、逆気
四行　（木・火・金・水）　土活真、炉活真、胃活真

2A 群読「面部の八門について」

面部（顔のこと）の八つの部分に、根本的なエネルギーの現れが見て取れる。

（ことば：）顔に八つの造作がある。すなわち、瞼、目玉。耳輪（いわゆる耳のこと）、耳穴。鼻、唇。舌、歯。
これを八門という。顔の八門に、天地運回の気を感合して、八門の妙用が行われる。
人気のみにて活行することできず。天地の気も人気を受けざれば行われず。天地と人と、和して直耕し、
活真の妙道をきわめ尽くす。

2B 歌「八門の形貌」

八門の形・姿を、四行（木・火・金・水）それぞれの気の進むはたらき、退くはたらきとの関係で、イメージ豊かに語る。

（歌詞：）八門の形貌を謂うときは。
まぶたは木の実の殻（から）、めだまは木の実の核（さね）、これ、木の進退なり。
耳輪は水の流れの渦巻く姿、耳穴は水、穴を糺（ただ）して入るところ、水の進退なり。
唇は火の燃ゆる姿、舌は燠（おき）の形、火の進退なり。
鼻は岩山の館内（たてうち）の姿、歯は岩内（いわうち）の金有るの形なり。金の進退なり。
皆、進む形をもって、退貌を包むのそなわり、転、定を包むの余行なり。

（意：）顔の八つのパーツのかたちのことを言うならば：
瞼は、木の実の殻、目玉は、木の実の種、と言える。
これは、「木の気」が進むさまと、退くさまに相当する。
耳は、水の流れが渦を巻く姿であり、耳穴は、水が穴を調べようと入るところであり、これらは、「水の気」が進む状態と、退く状態にあたる。
唇は、火が燃える姿で、舌は、赤くおこった炭火の形であり、「火の気」が進むさまと、退いたさまを表す。
鼻は、鉱山のなかの鉱脈に立て杭が建てられている有様で、歯は、岩から鉱脈が現れている有様である。
これらは、「金の気」が進んださまと、退いたさまにあたる。
いずれも、気が進んだ状態のかたちで、気が退いた状態の姿を、包んでいる。
天が地を包んでいる有り様のエネルギーが、人間の顔に及ぼした姿と言える。

2C 群読「八門の互性」

八門の、互性的な関係のペアを、ことばで、身体で表わす。

（ことば：）瞼と耳輪は互性です。目玉と耳穴は互性です。唇と鼻は互性です。舌と歯は互性です。

3A ソング「エストレラス、エスメラルダ」（作詞作曲 1996 年）

昌益「自然真営道」と直接には関係しないソングズの１曲目。歌詞に、星のこと、ご飯のことが出る。

（歌詞：）雨のあがったばかりの　夏の日の路地裏の
夕暮れの空が　星空に変わる　昼と夜との合間の時間
醒めた瞳の奥に　はしゃぎ回る気持ち
君は一体どこから来たの　記憶の奥に隠れる夕暮れ

ぼくの心は語り続ける　犬が吠えても一緒にゆこう
ご飯の匂いがするから　ぼくらの身体も輝き出す

時が子どもたちを　包み運んでいくよ
熱い空気もゆっくりと下がり　この世の謎がとけ出してゆく
気の遠くなるくらい　遠かった心ここに
月より遥かな　星たちがまたたく
ステラ・バイ・スターライト　estrelas エスメラルダ

ぼくの心は君に触れて　遥かな謎深める旅に出た
どこからか来て　どこかへゆく　夜のとばりが降りる　その前に

（注 estrelas：ポルトガル語で「星」（の複数形）

3B 即興「炊気」

炊飯の気も活真のエネルギーの最たるものである。その気と、身体や音が互性的に対応する試み。

4A 群読「いろり」

家の中の囲炉裏（いろり）には、世界・宇宙のありさまが集約して見て取れると昌益は言う。
一番下に土・灰がある、そこで木（たきぎ）が火となって燃える。
上から金属の鍋鉤で吊るされた鍋、そこに入っている煮炊きの水。
四行（木・火・金・水）のエネルギーが互性的（相互的）にやりとりしているというのだ。

（ことば：）焚き木が盛んなときは、鍋の水は減る。
鍋の水が沸騰するときは、焚き木はもう用済みだ。
焚き木と、水は、互性だ。

燃える火が盛んなときは、鍋のツルは熱くて触われない。
鍋のツルに触われるようになったときは、火の働きはもう収まっている。
燃える火と、鍋のツルは、互性だ。

いろりの四行、互性の妙用において、転下、万国異なれど、ただ一般なり。
食物、煮熟して、口に入り、胃に至り、ひとを助けて、常を得るは、
すなわち炉・土活真の直耕にして、万生熟すと同一の妙道なり!

4B ソング「すいずいさー」（作詞作曲 2015 年）

ソングの２曲目。意味のないように見える、ひらがなの音により織り成されていきます。

（歌詞：）※ すいずいさー　すいずいさー　けらちらぽり
すいずいさー　すいずいさー　けらちらぽり ※

けたり　すかりち　ぽりら
けたり　すかりち　ろっぽいで
けたり　すかりち　れぽりすたか　りぽりすたか
けたり　すかりち　ろとこいろ　（※～※繰り返し）

すいずい　すいずいさー　すいずいすい　すいずいさー
すいずいさー　すいすいずいさー　すいずいさー
（※～※繰り返し）

けたり　すかりち　ぽりら
けたり　すかりち　ろっぽいで
けたり　すかりち　れぽりすたか　りぽりすたか
けたり　すかりち　ろとこいろ　こいろ　りろ　いろ
（※～※繰り返し）

5 器楽四重奏「四行妙道の楽」

1A の四重奏の楽器に、パンデイロも加わる五重奏ですが、様々な取合わせで合奏が行われます。

6 インストラクションによる即興「金気の響き」

9 人でボウル（金属）の響きを、インストラクションにより感合する即興です。

7A 朗読 / ダンス / ピアノ「諸獣会合」

「自然真営道」第 24 巻 “ 諸獣会合、法世を論ず ” では、動物達が集まって人の世について意見を述べ合う。
多くの動物が登場するが、その中から狐、鼠、猫の意見を聞きながら、ことばと身体と音で。

（1）狐　キツネが、一座の隅ではいつくばっている。イヌが恐いのだ。
猫がキツネにいう、「我が友よ、何か言ったらどうだ？」　キツネが言う、「わたしは、野火の精に生まれた。野に住み、ノネズミを食い、タニシを食い、土の穴を掘って、そこに寝る。
野原の、蒸火の気をたくさん受けたから、わたしの身体は臭うし、わたしの息は暑苦しい。
野火の気が、尻尾にあって、夜影の気に触れると、ともしびのように燃える。
人は、私に近づくと、わたしの息の臭いに、寒気がするから、わたしを恐れるし、正しい判断ができなくなってしまう。
わたしが進むと、それがまるで道のように見えて、ひとは私のあとについてくるが、迷って、うろたえ、わたしは、それをいいことに、そのひとに近づき、食べ物を持っていたら、奪って食い、持っていなければ、ほうって逃げる。
わたしには、野火の気が満ちているから、身も心も横気が盛んで疑い深い。生まれつきなのだ。
だが、ひとの世のひとびとは、せっかく通気のもとに生まれたのに、欲深い心に迷い、天の道を盗み、むさぼり食い、わたくしごとの法を立てて、これが法の世だと言っている。
通気のひとが横気になっているのだから、キツネに化けているのと同じではないか。」

（2）鼠　ネズミは、猫が同席しているので、土穴に隠れている。
イタチが言う、「ネズミよ、猫を恐れることはない。この集まりは、あらゆるケモノの寄り合いだ、世の人の寄り合いと同じく、集まりの間は、自分にとっての大を恐れることも、自分にとっての小を食らうことも、お互いに、ない約束だ。だから、キミも、何か言いたまえ」。
それでネズミは言う:「私は、人家の煙の精に生まれついた。煙の気は、人家の器から衣、食物まで、すべてを燻す。
だから、人家のなかで、私がかじらない物はないのだ。だが、昼間は猫がいるから外に出られない。
夜にだけ出てきて、猫のいないところで、人の食べ物はなんでもかじって食う。
ところで、ひとの世には、耕しもしないで、うまいものや小綺麗な服を好む者がいる。
上が奢って、下が窮している。
上が天道を盗むのを真似る者は、けっきょく私のように、夜に出てきて、人家に忍び入り、財貨を盗む者と同じだ。
ひとの世が、ケモノの世界より、偉いわけではない。
ヌスミと、ネズミが、韻を踏んでいるのは、こういうわけだ。」

（3）猫　猫は、一座の隅にいた。
キツネが言う、「ねこ殿は、ニャンにも言わずにいるのは、ニャンだ」
猫が言う、「わたしがあなたと踊るとき、あなたは歌い、わたしは笛吹く。
ひとの世のひとびとも、音を奏で、踊る。
私は、人家のイロリの灰の精気から生まれ、ねずみをとって食べるのは、わたしの習いだ。
ねずみが出るのは夜。
だから、私の目は、夜によく見えるようになっている。
瞳のかたちが、針のように、ウリザネのように、あるいは三角に、また丸く、と四種のかたちになる。
昼に、夜に、一日の八つの時間に、それに応じてかたちを変える。灰の精気のはたらきだ。
だが、ねずみを取るのを怠って、わたしが飼い主の家から離れ、あちこちさまよい、盗み食いをすることがある。
ひとも、我が家に居つかず、あちこち駆け回り、家業を怠る者がいる。
わたしと同じ業である。」

7B 器楽四重奏「猫何」（作曲 2018 年）

最初作った際は「猫はいつも何ものでもない」というラップ中心の曲だったが、その後トリオ版編曲を経て、ピアノソロ曲「猫何」になった。今日はその四重奏版・新編曲です。

8 ソング「だんでぃらいおん」（作詞作曲 2022/2023 年）

ソングの３曲目。今回が初発表。

（歌詞：）だんだらダンディライオンが言う
明日の天気なんて知らないけれど
スルメを干すには良い日であることは　間違いない

だんだらダンディライオンが言う
明日の天気なんて知らないけれど
スルメの身になって　少しは感じてくれたまえ

ことばの及ばぬ世界が　わたしと連れ添うつもりだと
息をひそめてささやくうち　急ぎ　あわてず　緩み　乾く

音と香りの立つところ
そこだけを目指して
音のわだちの消えるとき
その行方　儚（はかな）し 知れず

9 群読 / 音「八門と八根」

顔の八門は、八つの臓腑にとっての根でもある。また、八つの身体部位にとっての根でもある、と言う。

（ことば：）瞼は胆嚢の根。耳輪は膀胱の根。この二つは互性だ。
目玉は肝臓の根。耳穴は腎臓の根。この二つも互性だ。
唇は小腸の根。鼻は大腸の根。この二つも互性だ。
舌は心臓の根。歯は肺臓の根。この二つも互性だ。

瞼は左足の根。耳輪は右足の根。この二つは互性だ。
目玉は下腹の根。耳穴は腰の根。この二つも互性だ。
唇は左手の根。鼻は右手の根。この二つも互性だ。
舌は胸の根。歯はうなじの根。この二つも互性だ。

10A 群読「眼と耳」

眼は木気（木の気）なのだが、瞳の内側には水がたたえられているから、眼で視ることの本質には、水の気である耳の働きがあると言う。視る感覚が充全に発揮されるときは、むしろ聴く感覚が協力しているのだと。

10B 歌「眼は木気、耳は水気」

（歌詞：）眼は木気、耳は水気、互性の備妙なり。
転定運回、八気互性の木気、眼に感合して、視ることをつかさどる。
運回の水気、耳に感合し、視るの妙徳性をなす。
ゆえに活真に視るときは、視る内に七門の妙用伏して、視るの一央となりて、
転定・人・物の色、品、形、眼の黒玉の水内に浸して視るなり。
七門の妙徳用、視る内に伏す。ゆえに、見尽くさざることなし。
これ、活真の見るなり。

10C 群読「耳と眼」

10A と逆に、耳（聴くこと）のうちには、視る働きが潜んでいる。さらに、視る場合と同様、充全に聴くときには、聴く以外の一切の感覚が、耳に協力している、と言う。

10D 歌「耳は水気、眼は木気」

（歌詞：）耳は水気、目は木気、互性なり。
転定運回の水気、耳に感合して、聞くことをつかさどるなり。
運回の木気、目に感合し、聞くの妙徳性をなす。
ゆえに活真に聞くときは、聞く内に七門の妙用伏して、聞くの一映となりて、
転定の風音、人・物の言語、音・声・韻、
鳴（さえづる）・吠（ほゆる）・喘（すだく）・吭（うめく）、耳穴・空虚の外に浮かべて聴くなり。
七門の妙徳用、聞く内に伏す。ゆえに、聴き尽くさずということなし。
これ、活真に聞くなり。

11 インストラクションによる即興「互性パフォーマンス」

互性をモチーフにインストラクションにより感合する即興。出演者全員による。

12 器楽四重奏「四行転回の楽」

ピアノ中心に奏でられる転回の音。

13A 群読「昼夜、季節、星」

囲炉裏にあらわれている活真（エネルギー）の様態は、昼夜・四季といった時間のめぐりや、星々のめぐりのさまとも通底しているのだと言う。

（ことば：）転定の四季、春夏秋冬、八節の気のはたらき、互性、一年の妙行、すべて炉のなかに備わり、これをなす。
燃ゆる火、ナベカネ、炉のうちを照らすのは、太陽と金星の互性で、昼をつかさどる備わりだ。
燃ゆる火のうちから、煙がたちのぼるのは、天の玄玄の気の備わり。
炉の上のススが黒く光り、煙がへめぐるのは、月と木星の互性、夜をつかさどる備わりだ。
燃ゆる火の先から火の粉が明るくたちのぼるのは、八星転と星々と同じはたらきだ。
炉はすなわち、転定、自然、活真、自感、八気、互性、通横逆の妙道であり、備わりだ。

13B 歌「炉内 - 面部 - 直耕」

囲炉裏や顔にあらわれている活真の様態は、直耕（そもそもはひとが自ら耕し調理し食物を得ること）というハタラキとも同じことだと言う。

（歌詞：）転定・活真、一歳・八節の妙行は、穀・万物生成の為めなり。此の穀は、ただ人食の為めなり。これ転定・活真の直耕なり。このゆえに転定、回・日・星・月の八運、八気、通気・横気・逆気、自行の妙道、互性の気行（は）、穀・人・四類・草木生成する活真の直耕なり。直耕をもって転定を尽くして人家に備わり、炉において直耕、転定の妙道を尽くす。面部に備わり、八門において直耕、転定の妙道を尽くすのみ。このゆえに無始無終なる自然･転定･活真の妙行は、直耕の一道にして、まったく二道なく、その至証、炉内･面部なり。

14 ソング「丸く沈む」（作詞作曲 2020 年）

ソングの当夜４曲目。初発表。

（歌詞：）晴れた日に　弁当持って　小高い山に　登ろうよ
そして　あの池の真ん中に　小さな小石を　うまく投げると
ああ　美しい波紋を　ただ描いて　ゆっくりと　ゆっくりと　丸く沈む

15A 器楽四重奏「土活真の楽」

終盤で鍵盤ハーモニカで４人がさらに加わります。

15B 群読「生死」

（ことば：）生死のことは、無始無終なる活真の自行、進退。互性は生死。
活真すすめば生。ひけば死。生死は互性で無始無終。
ゆえに天地も生死。日月も生死。昼夜も生死。呼吸も生死。
瞼の開合も生死。心と知識も互性、生死。
生死は、互性の名で、活真の妙体。

16 ソング「よもぎだんご」（作詞作曲 2019/2020 年）

ソング５曲目。ラップの部分は "よ・も・ぎ" 尽くし。

（歌詞：）※ よもぎだんご　よもぎ　よもぎ　よもぎだんご　イェイェイェー
よもぎ摘んで　よもぎ　よもぎ　だんご作る　イェイェイェー ※

世も末だ　もぎたての　ぎんなんくわえて　トンズラか
よっぴいて　ものものしくも　ギコギコ鳴らす　カメレオン
夜も更けた　門外不出の　吟醸酒でも　くみかわそう
四三二！　もう一度　ギターを持って　南無参上　（※～※繰り返し）

横槍を　揉みくだし　議事録とらぬ　大間抜け
宵っ張り　モゴモゴまだまだ　ぎっくり腰など　まっぴらさ
良かれなど　妄想仕立ての　義理根性が　気に入らぬ
よんごとない　もっかい初めに　議会にかけて　お陀仏だ　（※～※繰り返し）

なお右記もぜひご覧ください。コンサート「自然真営楽」特設サイト：https://www.ne.jp/asahi/kawai/takuji/
コンサート「自然真営楽」特設 blog ：https://shizen.asablo.jp/blog/

出演者紹介

Performers

河合 拓始

Takuji Kawai

1963 年兵庫県 神戸市生まれ。幼時よりクラシックピアノを学び、その後現代音楽に興味を持つ。1987 年頃から即興演奏を始める。1991 年東京藝術大学大学院（音楽学専攻）修了。在学中から即興音楽家としてソロやアンサンブルのほか様々なジャンルのアーティストと共働する。近年は現代音楽作品コンサートと即興ライブのほか、作曲、トイピアノや鍵盤ハーモニカの演奏会、朗読や舞踊との共演、ことば表現やパフォーマンス、一般の方々とのワークショップなど活動は多岐に渡る。2008 年・2012 年欧州演奏旅行。2011 年ニューヨークでの第一回 UnCaged Toy Piano Festival に招聘参加。東京で二十数年活動後、2012 年から福岡県糸島市在住。CD に図形楽譜による「一柳慧ピアノ音楽」など。2021 年、任意団体「クリスチャン・ウォルフの音楽コンサート実行委員会」を立ち上げ、現代音楽･即興音楽の公演を企画する。中学生の時、社会科の山内英正先生の授業で安藤昌益のことを知って以来、何かが気になること幾歳月。それが今日このような形になりました。
公式ウェブサイト：http://www.sepia.dti.ne.jp/kawai/

上野 ゆみこ

Yumiko Ueno

学生時代より独学でドラム・パーカッションを学び、ジャズ･ロック･ラテン等様々なジャンルの演奏を経験。頭数合わせで参加したイベントをきっかけにブラジル音楽に傾倒、故本田健太郎氏にブラジル音楽全般とパンデイロを師事。その際、歌曲の多いブラジル音楽の魅力に触れ歌いはじめる。歌を JAZZ シンガーの Mayumi 氏に師事。これまでに福岡・東京・長崎・山口・佐賀のジャズクラブ、ホテル等で多様な演奏経験をもつ。2014 年には1ヶ月間ブラジルに遊学。趣味さんぽ。

神山 孝史

Takashi Kamiyama

好事家。芸能芸術各種。
監督映画『ラリー街 11 番地の方へ』『言葉について』『明烏夢泡雪浦里雪責段』。
新作『ぼくンがしんだ』準備中。

川内 依子

Yoriko Kawachi

京都市生まれ。福岡市在住。カフェナギコバスキという屋号で様々なイベントに出張カフェ等を開催し、食べ物を通じて、人と人が繋がる楽しい場づくりを展開する。友人の家になっている果物と国産の粉等を使って素朴に焼き上げたお菓子や天然酵母パンの製造販売、オーガニック・フェアトレードコーヒーの自家焙煎を行っている。2016 年より表現塾に参加。

松﨑 壱慧

Ikkei Matsuzaki

ソーラン節の踊りのキレを追求する元気いっぱいの小学 3 年生。合唱や演劇の練習と、絵を描くのも大好きです。人前でパフォーマンスしても緊張しない。という特技を活かし、出場した地元のカラオケ大会で見事入賞しまくって調子づいています。ピアノは両手で「ちょうちょ」にすすみました。「エリーゼのために」が早く弾けるようになりたいです!

内田 遼
Ryo Uchida

主にラテン音楽を中心としたポピュラー音楽の分野で活動する。自己のラテンジャズバンド Filomela のほか、ジャズビッグバンド等に所属し、演奏や作編曲を行う。各地での演奏を通し、国内外のミュージシャンと共演を重ねている。現代音楽や即興演奏にも取り組んでおり、これまでにジョン・ゾーン「COBRA」やテリー・ライリー「In C」等の公演に参加。音楽教室の講師を務めるほか、学校の吹奏楽部等の指導も行っている。

柊 大也
Masaya Kakoi

1990 年生まれ。専門は音楽学、歴史学、特に近現代日本の西洋音楽史。在学中は九大フィルハーモニー・オーケストラに在籍し、オーボエ、学生指揮を担当。その後は芸工アヴァンギャルド・コンソート等で古楽、現代音楽の演奏を行う。近年は九州交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団等に曲目解説を、『Mercure des Arts』に音楽批評を寄稿している。主要業績に、『「騒音と「法悦境」のあいだに―山田耕筰の音と耳』（細川周平編著『音と耳から考える』掲載）、『「赤とんぼ」は戦後の空に翔ぶ』（『歴史地理教育』927 号掲載）、『《沖縄を返せ》のプラティーク』（『琉球沖縄歴史』2 号掲載）。現在、九州大学大学院芸術工学府博士後期課程在学中。

長津 結一郎
Yuichiro Nagatsu

多様な関係性が生まれる芸術の場に伴走／伴奏する研究者。1985 年北海道生まれ。ピアノ、合唱、吹奏楽、オーケストラ、路上ライブ、インディーズバンドなどの活動を通じすくすく育つ。2016 年より福岡を拠点とし、ワークショップやアートマネジメントに関する教育、演劇・ダンス分野のマネジメントやプロデュースなどを行う。2005 年 PTNA ピアノ・コンペティション全国大会入選（グランミューズ部門 Y カテゴリー）。東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程（芸術環境創造）修了。現在、九州大学大学院芸術工学研究院准教授。

松﨑 早織
Saori Matsuzaki

兵庫県生まれ。京都→東京→ベルリンでの生活を経て、現在は、糸島市にあるアートカンパニー Studio Kura にて右往左往の日々を送る。子どものための絵画造形や、海外アーティストを迎えるリアルなアートの現場と関わりながら、いろんな企画を実行中。地域に根ざした芸術祭「糸島国際芸術祭 糸島芸農」の実行委員。音楽経験は、はるか昔の少年市民合唱団しかありませんが、脳の新しい部分を働かせ、現代音楽に挑みます。

辻 菜津子
Natsuko Tsuji

幼少期よりクラシックバレエを坂本順子氏に師事。13 歳より美歌三智也氏・力久映子氏の元でジャズダンス・モダンダンス（グラハムテクニック）を学ぶ。舞踏を原田伸雄氏に師事。20 歳より恵ストレッチダンスのインストラクターとしてバレエ・ジャズ・コアトレーニング、障がいを持つ子ども達のダンスの指導にあたる。近年、グラハムテクニックの概念を盛り込んだ身体操作法を考案。洋舞、日舞、球技、武道 etc. ダンスやスポーツのジャンル / プロ・アマ問わず様々なアーティストやアスリート達に指導。踊りのジャンルを超え、カラダを動かすその意味や可能性を追求中。

新部 健太郎
Kentaro Niibe

中国武術・易筮家。函館生まれ、福岡市在住。NPO 法人「福岡気功の会」指導員・理事。東京操体フォーラム相談役。壺中堂中国武術教室主人。来福以来、気功および中国伝統武術、易学を学ぶ。一読書人として東洋思想を漫遊しながら、中国武術「八卦掌」の教授、易経講座、中洲スナック占い師、九州大学国際部「JTW」プログラム外部講師などを遍歴。2011 年、「筥崎現代音楽祭」参加。2012 年、書斎ーぶる「周易カフェ」講師。2013 年、「読書の快楽」松岡正剛氏トークライブにてオープニングアクトをつとめる。

ご支援（クラウドファンディング）の募集ご案内

当コンサートは、公的な支援・経済的な助成をまったく受けずに企画運営しています。
ある程度大きな会場で、多人数で公演を行うには、様々な経費が必要で、入場料収入だけでは賄うことができません。「クリスチャン・ウォルフの音楽コンサート実行委員会」では、今回のコンサート、そしてこれからの企画においても、福岡発の有意義な音楽文化の一助となるべく、活動をしていく所存です。
ぜひ皆様のご支援をお願い申し上げます。

DONATION

ご支援方法は次の２つです

01 下記のクラウドファンディング・サイトから。

ご支援申込は
12/31(日)
23:59
まで

コンサート「自然真営楽」を応援してください!!

https://camp-fire.jp/projects/721736

ご支援の見返りとして、さまざまなリターンを設定しています。
当コンサートでの演奏曲目の楽譜やリハーサルでの演奏音源、
そして河合拓始の支援者個人宛のピアノ即興演奏 " スペシャル・インプロヴィゼーション・フォー・ユー "（人数限定です）まで、どうぞお好みのリターンを選んでください。

02 「クリスチャン・ウォルフの音楽コンサート実行委員会」の銀行口座宛に直接のご支援。

クラウドファンディングサイト運営会社の手数料（17%）なしに、
全額が実行委員会のもとに届きます。

ご送金の宛先は

福岡銀行（銀行コード 0177）・糸島支店（店番号 255）・普通口座番号 2295066
名義：クリスチャン・ウォルフの音楽コンサート実行委員会

ご支援をいただいた皆様

※12 月 1 日までにご支援いただいた皆様です。心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

㈱ Studio Kura 様、大西克知様、上原大輔様、ピアノファクトリー・クジラ様、T.S. 様、大澤寅雄様、山下史朗様、田中吉史様、手塚夏子様、渭東節江様、中村美亜様、山中理恵様、翼宿ゲストハウス様、今宮優子様、匿名御希望の皆々様